

第4回石川県成長戦略会議 議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和5年8月22日（木）15時00分～16時30分
2. 場所：ホテル日航金沢4階 鶴の間
3. 出席委員（五十音順）：

青柳正規	石川県立美術館長
庄田正一	公益社団法人石川県観光連盟理事長
砂塚隆広	一般社団法人金沢経済同友会代表幹事
高山純一	公立小松大学サステイナブルシステム科学研究科教授
丹康雄	北陸先端科学技術大学院大学副学長
飛田秀一	一般財団法人石川県芸術文化協会会長 一般社団法人金沢経済同友会相談役 公益社団法人石川県観光連盟会長 一般社団法人石川ユナイテッド会長
西村依子	石川県人権擁護委員連合会会長
早川和一	金沢大学名誉教授
平櫻保	一般社団法人石川県建設業協会会長
眞鍋知子	金沢大学融合研究域教授
丸山章子	金沢学院大学スポーツ科学部教授 公益財団法人石川県スポーツ協会理事
水野一郎	金沢工業大学教育支援機構教授
南眞次	社会福祉法人石川県社会福祉協議会 石川県社会福祉法人経営者協議会会長
藻谷浩介	株式会社日本総合研究所主席研究員
柳与志夫	東京大学大学院情報学環特任教授
和田隆志	公益社団法人大学コンソーシアム石川会長

(議事次第)

1. 開会挨拶 飛田石川県成長戦略会議会長
馳石川県知事
2. 議事 石川県成長戦略最終案について
3. 意見交換
4. 閉会挨拶 馳石川県知事

(説明資料)

資料：石川県成長戦略最終案

参考資料1：パブリックコメントの結果

参考資料2：第3回石川県成長戦略会議議事録

1. 開会挨拶

【飛田会長】

昨年9月に第1回の会議を開き、もう最後の4回目となりました。これまでの委員の皆さまのご意見の多くが、最終案に盛り込まれていると思います。本日も皆様のご意見をお聞きし、県の方で取り入れた方がよいと思うものがあれば取り入れて、議会への提出案にしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【馳知事】

第4回目の会議となる本日、最終案をお示しして皆さんにチェックしていただいた上で案を練り上げ、9月議会に諮りたいと思っています。働きやすく、住みやすく、活力ある石川県を目指す、幸福度日本一の石川県を目指すときの比較衡量としては、人と比べるのではなく、ダントツの石川県らしさを表現した指針とする必要があると思っています。それを表現できる素地が産業界にはありますし、文化・教育、また福祉の分野においてもそれぞれ現場が頑張っておられます。今回それを戦略という形でお示しし、KPIの指標もお示しして、それを毎年のように見直していくという柔軟性を持って動いていきたいと思っています。

これまで委員の皆さま方から頂いた様々なご指摘を、県の各部局でもんで最終案をお示しすることになりました。また、既に今年度の予算に昨年度来の議論を盛り込んで、特に文化観光に関しましてはファンドも作りまし、少し前のめりに積極的に進めてきています。今回で一つの区切りとなりますけれども、皆さま方には引き続きご指導いただきたいと思っております。

今日は短い時間ではありますが、最終案を事務方から説明させていただいた後に、意見交換をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議事

石川県成長戦略最終案について

(事務局から、資料に基づいて説明)

3. 意見交換

【庄田委員】

今回が最終回ですので、これまで話したことと一部ダブるかもしれませんが、確認も含めて話をさせていただきます。

忘れもしない2015年、北陸新幹線が金沢開業しました。当時、他県の色々な方から北陸新幹線の効果は5年だと言われました。しかし、5年たっても京都は人出が戻っていない。それは戦災に遭わず歴史・伝統・文化が残っていることが決め手だろう。それを考えれば石川県もしかりなりと自信を持ったことが、つい最近のこのように思い出されます。

多くの県は戦災に遭って歴史・伝統・文化が壊され、戦後、道を広くして一気に近代化の道を進みました。その決め手となったのは、情報収集であったと思います。それに対し、石川県は戦災に遭わなかったために歴史・伝統・文化が残っていて、それを大切にしています。

その決め手となったのは、情報発信であったと思っています。

そういう観点に立って何を情報発信するかとなると、今はオーバーツーリズムを考えざるを得ませんので、その意味では観光の分散化で、時間やシーズン、また場所を分散化しながら観光を開発していく。このことを一方に置きながら、しかし何といても量より質の文化観光と食文化、この二大看板を旗頭として今年の秋から開催される国民文化祭、そして次年度の北陸新幹線県内全線開業、そしてその翌年の大阪万博、これらを契機として力強く情報を発信することが、これから石川が伸びる唯一の方法であると自負しています。

また、海外の観光の潮流は、皆さんもご承知のとおり自然や文化の体験を組み込んだ観光であるアドベンチャーツーリズムと、もう一つは環境保護、自然保護の立場に立った持続可能な観光であるサステナブルツーリズムがこれからの本流だと思われまます。われわれ観光に携わる事業者としましては、デジタル化による生産性向上と脱炭素・脱プラスチックを頭に置きながら、例えばわれわれ宿泊業であれば具体的には客室の備品やアメニティなどを脱プラスチックの商品に切り替えていくことが必要かと思っています。

観光の大義は訪れてよし、住んでよしであるということを肝に銘じ、知事がおっしゃっている幸福度日本一の石川県の未来の一翼を担うのは文化観光と食文化であるということをお願いして、私からの話とさせていただきます。

【青柳委員】

今日お示しくくださった最終案を拝見して、よくぞここまでおまとめくださったと感謝しております。その中で私が今一番感じているのは、今、日本はとんでもない状況になりつつあるということです。とんでもない状況は三つあって、一つはどこの国にもないような財政赤字、人口減少、地方の劣化です。しかし、そういう状況の中でも各地域が活力を持って次の世代へ希望のある社会を提示していかなければいけない。そのときに何が一つの指標になるかということ、若い方々の自己肯定率です。今私が一番心配しているのは、それが世界的にも非常に低いということです。ですから、少なくとも石川県に住んでいる若い方々が、自分自身の存在を認めることができ、そして自分自身をこの石川という社会の中に位置付けることができる。つまり、優秀な人は優秀なポストに就き、そうでない人も生きがいのある職業にきちんと就く、あるいは生きがいのある生活ができるようにすることが非常に重要ではないか。そのための環境づくりが、この石川県成長戦略だと考えています。

厳しい日本社会の中であって、次の世代の人たちがいかに自分を社会の中に位置付けることができるかということ、ぜひぜひこの成長戦略の最終的な目標というか、当面この戦略を実行する中で目標と考えていただければと思います。

【柳委員】

私が主に関係している横断的戦略1について、いろいろ意見を述べさせていただいたことを非常に前向きに、大幅に取り入れてくださって、大変良いものになったのではないかと思います。大変ありがたく思います。

一言だけ追加すると、159ページを見ていただきたいのですが、この成長戦略会議では出生率を上げる問題が大きく取り上げられていますが、再三申し上げているようにデジタルの世界ではネットワークが非常に重要で、そういうことから見ると石川県に住んでいるかどうかよりも、石川県に関心があるか、好きか、一緒に何をやりたいかということが重要だと思っているので、藻谷さんがお詳しいところですが、最近よくいわれる関係人口を重視してはどうかと思います。

これをどんなふうに測ればよいかはこれから少し検討したいと思いますが、多分、石川県はリアル人口と関係人口の比率が全国一になる可能性があるのではないかと私は思っています。関係人口は、今、全国と言いましたけれども、世界の人口とも関わってくるという気概でやるといいのかなと思います。

それから、横断的戦略といっても必ずしもイメージが湧かないのではないかと思いますので、2～3分お時間を頂いて事例を紹介させていただければと思います。私が属すデジタルアーカイブ学会の金沢研究大会が今度、11月10、11日に金沢市で開催されます。通常、学会というと、当然ながら学会のメンバーがわいわいやるだけですがけれども、今回、機会を与えていただいたので石川県、金沢市に何か残していけるようなセッションを企画したいということで、今、六つほど考えています。

まず一つ目は人材育成で、これはデジタルを活用できる人材ということです。データサイエンティストやデジタルクリエイターなど、個別にいろいろいわれていますけれども、縦割りではなく横断的にそういう人材が使えるようにしたい。そして、そういう人材を育てる素地が石川県にはある。大学コンソーシアム石川を挙げさせていただきましたが、アートから理工、人文学、食マネジメントの大学までであるという強みを生かしていくことにデジタルアーカイブが活用できるのではないかとということで、人材活用のセッションを設けました。

二つ目は地域のアーカイブで、加賀市や、お隣の県ですが南砺市、それから金沢市などで地域アーカイブをどう地域振興に生かしているかという事例紹介をさせていただきます。これにも実際に各現地の方にご参加いただきます。

三つ目は石川新情報書府で、石川県は20年以上前に全国の先駆けとなるような産業デジタルアーカイブを作っていらっしゃいます。この伝統を生かし、かつ新しいDXなりAIなりデジタルアーカイブを使って新しい産業創造を考えていこうということで、当時関わってくださった高桑美術印刷や、新しいところでは私どもの学会と連携している凸版やNTTデータ、大日本印刷といったところとお話をさせていただきながら、デジタルの方面の新しい産業創造に一体何が貢献できるかという議論をしたいと思っています。西垣副知事にもご登壇いただくことになりました。

四つ目は農と食を結ぶで、農業もこの戦略の大事な柱になっていますが、農産物の生産から消費までの流れだけではなくて、その先にある食文化や食育まで結びつくようなデジタルの戦略を考えてはどうかということでセッションを設けました。県立大の小林先生をはじめ安井ファームの社長、北陸農政局の次長にも来ていただいて、生産から食育、食文化までをデジタルを活用してどう結びつけていくかという議論をしたいと思っています。

五つ目は工芸で、世界に発信していく工芸についての議論を、金沢美術工芸大学の学長自ら企画していただきまして、青柳先生の県立美術館を使ってやらせていただきます。

最後、六つ目は教育で、デジタル教材の活用というのは単にデジタル化した教科書を使うということではなく、今申し上げたようなありとあらゆるデジタルコンテンツを使って教育をしていくということです。その一例として、石川県の地域資料をデジタル化したものと防災関係のデジタルコンテンツを使ったワークショップを、金沢市の学校の先生方にも加わっていただいで開催する予定です。

このような感じで、それぞれの分野でどう横断的にデジタルを活用していけるかということを示して、少しでも今後の発展の材料にさせていただければと思います。

それから、今は分野ごとに企画を申し上げましたが、本当は農と教育、産業と工芸を結びつける働きがデジタルにはあるので、そういったことも考えていきたいと思っています。そんなことをやろうとしていますので、11月にはぜひ皆さんお越しください。

【南委員】

私は温もりのある社会・人づくり部会に参加させていただきました。最初から介護の分野では人材確保が最重要だということをお願いしていて、111 ページに介護職員の目標数 2 万 3,000 人という高い目標を入れていただきましたが、まだまだ不足しているということで、またよろしくをお願いします。

この目標を実現するには 2,000 人くらい増やさなければいけないのですが、養成校などにも学生さんがいない状況の中、外国の方にも少しお願いしなければという形になってくると思います。この辺も戦略の中にだいぶ盛り込んでいただいたので、賃金につられて大都会に行かないくらい、石川県に魅力を感じてもらえるといいなとつくづく思っています。

介護福祉サービスの方は相談支援がスタートになると思うのですが、障害や高齢、児童についてもたくさんの方の支援体制を整備するとうたわれています。加えて最近は複合的な困難事例が多いと思っていて、その辺を、デジタルを利用して複合的にうまく支援できる体制になるといいなと思っていますので、また支援をよろしくをお願いします。

【水野委員】

県全体のこれからの方針づくりに際して、何人かの委員から文化立県という言葉が出ていましたが、それを柱の一つとして入れていただいたことを確認しました。文化振興条例の制定、文化振興基金の拡充によって文化を推進していこうという基本的な線が見えてきて、非常に喜んでいきます。

具体的には、例えば石川県の戦略である兼六園周辺文化の森は、金沢の都心を歴史と文化と公園、水と緑で占めるという画期的なプロジェクトで、日本では非常に珍しいものです。それをこれからもブラッシュアップしていくとか、あるいは石川県には色々な文化財があります。珍しいもので言えば海女の活動を文化財に指定しましたし、それから建築分野で言うと重伝建に多数認定されています。様々な文化財をこれからもみんなで選び出し、決めていきたいと思っています。それから、パラスポーツなど色々な分野に文化を広げていくという話も随分出ました。世界農業遺産である能登の里山里海の農業や、石川県全域の繊維産業や機械産業、食品産業、伝統工芸産業といったものについて、量的に競うことは難しいけれども、石川県の場合は質で戦っていくとか、存在感を示していく。その意味で言うと文化だからといって文化振興だけではなく、基本的な農業や製造業、商業、学校教育、医療といったあらゆる場面に文化というものが入ってくる、そのような地域社会ができれば、住み良いたか、交流人口を増やすとか、あるいは活力あるといったことに厚みと持続性が加わってくるといような感じがしております。

ついおととい、金沢美術工芸大学の新校舎が竣工式を迎えました。その向かいに県立図書館が建っていて、新しい文化の創造拠点のようになっています。こうしたゾーンを中心に、新しい創造もしていきたい。実は金沢や石川県のように、歴史もあって新しいものも創造するという二面性のある文化を抱えている都市は、日本では非常に少ないのです。多くの都市は明治維新のときに国家戦略に沿って近代化・技術化・科学化に切り替え、各藩体制の地方の時代から中央集権国家として歩む道に転換していったのですが、その際、2割くらいの都市・地域が昔のままのものを保存しながら時代の後をゆっくり付いていこうではないかという選択をしました。そしてその後、戦災で焼け野原になったときにも、日本の多くの都市が復興に当たって近代都市計画を作ってまちを一新していきました。その2回の近代化に乗らなかった都市が、日本の中に幾つかあります。石川県もその一つで、そういう都市としての

存在感を持ちながら新しい創造もしていく。伝統と創造、保存と開発を両立させているゾーンであるという大きな視点でこの地域を見直していくことが必要ではないかと思っていますし、それを進めていくことが石川県の日本の中での役割を示していくことにつながるとも思っています。ですから、文化というものを柱にして、あるいは時代というものを柱にして、日本というものを柱にして成長戦略を練っていけばいいのではないかと考えています。

【丸山委員】

全体的にはとても素晴らしいものになっているなと感じています。57 ページからのスポーツについても、五つの項目でまとめられてとても分かりやすくなっていますが、この中でも特に競技スポーツの振興とスポーツのすそ野拡大・地域活性化の両立が課題になってくるかと思っています。県内スポーツ施設の利用者数の拡大がK P I の目標値として掲げられていますが、このスポーツのすそ野拡大と競技スポーツの振興の二つがうまく共存し、稼働していくことが必要だと思っています。

気になる点を2点ほど述べさせていただきますと、58 ページにアスリートセンタードの図式を描いていただいているのですが、アスリートセンタードという言葉を使っている割に真ん中がプレーヤーという言葉になっているのが、少し残念に思いました。アスリートセンタードでいくのであれば、真ん中もアスリートにさせていただけるといいなと思います。

もう1点は、60 ページにアーバンスポーツについて書かれています。現時点ではアーバンスポーツという言い方でよいかと思いますけれども、世界的にはアーバンスポーツよりもアクションスポーツとかエクストリームという言葉が使われることが多くなっているため、時代の流れに即した形で、必要であれば今後変えていく必要があるかと思っています。

【眞鍋委員】

私からは3点述べさせていただきます。私は人づくりの部会で議論をさせていただいてきましたが、86 ページの主要目標の全国学力調査の平均正答率について、人づくりの部会でも何人かの委員から発言がありましたし、また県民の方からも70%以上というのを主要目標に掲げるのはいかがなものかというご意見も複数あったということで、そこで私も質問させていただきましたので、今回、授業改善を図るためのものという一文を付け加えていただいたのだと思っています。実際にこの主要目標が現場の先生方のところに下りていったときに、70%以上という数値だけが独り歩きしないよう、注記の方も併せて周知していただきたいということが、まずございます。

それで、この主要目標とK P I の関係が少し分かりにくいのではないかと考えています。K P I は各施策にひも付いてたくさんあるのですが、主要目標は二つだけ、ばん、と挙げられていますので、この関係をどのように捉えればよいか、県民に分かりにくいのではないかと考えるのです。各K P I が達成されることで主要目標が達成するという構造になっているのか、主要目標に選ばれている項目は各K P I よりも重要であると捉えることができるのかなど、そこら辺の関係が分からないので、平均正答率が主要目標に出ていることについて県民の方々が懸念されているのではないかと考えています。ですので、主要目標とK P I の関係をどう捉えるかというところの整理、説明をきちんとしていただく方がいいのではないかと、1点目です。本来であれば平均正答率ではなく、先ほど青柳先生が言われたように、例えば子どもたちの自己肯定感が上がることを主要目標にする方がいいのではないかと、個人的には思っています。

2点目は82 ページで、K P I の目標値に今回新たに地域課題解決などのフィードワーク

プログラムに取り組む学生数が挙げられましたが、一番後ろのところに石川県調べとしか書いていないのです。これは具体的にどうやって調べられるのか。これは非常に重要で大切に、目標とされるにふさわしいものだと私自身は思いますけれども、大学でも教員が把握しているだけではなく、学生たちが学生団体のようなものを組織して様々なところで地域課題解決のフィールドワークをしていますので、そういうものまでをどうやって丁寧に把握されるおつもりなのか。そこをちょっと確認できればと思いました。

3点目は少し細かい点ですけれども、例えば70ページではK P Iの目標値の単位が統一されていないで、千人と万人という単位が混在しています。多分、それぞれのところではこういう記載の仕方をしているのだと思うのですが、ぱっと見たときに統一されているように書き直された方がいいのではないかと思います。

【平櫻委員】

私は建設業に携わる者として成長戦略会議に参画させていただきましたので、立場上、どうしてもハード先行の話が多いかと思いますが、お許しいただきたいと思います。

私からは成長という切り口と、もう一つは防災・減災の観点から安全・安心という切り口で主に意見を言わせていただいたのですが、非常に分かりやすくまとめていただいたと思っています。特にハードの面では、K P Iを取り入れていただいたので、県民にとっても進捗具合等々が具体的に把握しやすいのではないかと、的確な判断だったと思っています。

成長の方では、交流基盤を整備することによって移住・定住を促進する。そして最終の目標であり、知事のスローガンでもあった日本一の幸福度を目指すというところを重要視していきたいと思っています。

もう1点、県民の安心・安全を確保するという面では、特に近年、災害が激甚化、多発化している中で、地震対応、水害対応、そして今年の冬にあった能登地域を中心とした凍害による断水、停電についても的確に対応いただけることになっていきますので、ぜひこれを推進していただきたいと思っています。

【早川委員】

私が担当させていただいた農林水産関係については県内で働く人の数が非常に少ないという現状課題を、また環境については能登や白山手取川を含めた水・空気・土という豊かな環境資源の活用が、将来の計画によくまとめられていると思います。今後、その実施に当たっては、他の文化・教育等を含めた横断的な連携が非常に重要だと思います。これは何回も各委員の方々がお話しになられていることでもあります。それから、これから10年後、その次の10年後の検討項目に挙がると思うことがあります。それは、今後ますます外国人労働者や外国人観光客が増え、しかも日本海、空も含めて国際関係も非常に複雑化していく状況にあることです。そうすると県独自ではなく県を超え、さらには国を超えたハーモナイゼーションやデベロップメントという考え方が必要になるだろうと予想されます。そのための課題の掘り出しと検討も、今後考えていく必要があると思っています。

【西村委員】

全体としては大変素晴らしいものができつつあるなと感じています。これまで私が申し上げてきた色々な点について、取り入れていただくものは取り入れていただき、また無理でしょうという部分は変わらずということで、それなりに反映していただける部分はいただいているかと思います。

その中で、農林水産業、戦略2に関連したことで一消費者として気になった点を、2、3述べさせていただきます。本当に大きな点なので難しいだろうし、今更言ってもせんないことで、門外漢の私が言うことが当たっているわけではないのだろうと思うのですが、30ページの(1) 水稻から園芸作物などへの転換による農業所得の向上のところ、農業を持続させていくために農業所得の向上は大切なことだとは思いますが、今の世界の情勢の中で、水稻から園芸に変えていくことで本当に数年後の日本の、あるいは石川の食の安全が確保されるのかと正直感じます。国の政策としてもずっとこういうことでこられたのでしょから今更それを転換というのも難しいのですが、一消費者として気になっています。

それから同じく30ページの③生産性の向上を図る農地整備とか、32ページの(4) 農地集積・集約という点、大規模にして生産性の向上を図るということで、その価値自体は皆さん認められるのしょうけれども、それによって本当に農家が幸せになるのか、あるいは消費者がより幸せになるのか、正直疑問を感じます。

他方、34ページの施策2 持続可能な農業・畜産業の体制づくりで、石川県エコ農産物や特別栽培農産物、有機JASなど、無農薬や減農薬という方向性には私も大賛成で、私自身も長年合鴨による無農薬米を県内の顔の見える生産者からずっと購入して食していますけれども、この方針と先ほどの大規模農地の整備や農地の集積、あるいは大規模な農業を進めていくということとは矛盾しないのかということも、少し気になっています。

本当に門外漢が一消費者として申し上げて、しかも今更この方針のどこをどうしろと言うのだと言われそうですが、すみません、感想的な感じで述べさせていただきました。

【丹委員】

まずは取りまとめていただきました事務局の皆さま、ご苦労さまです。どうもありがとうございます。今回は最終案だということで少し細かい話なのですが、今回の成長戦略は、多分、冊子になるくらいの分量だと思いますが、これには索引は付けるのですか。キーワードがどこにちりばめられているかということが分かるものがあるかどうか。これを検索可能なPDFなどでも配布するというのであれば手元で自分で検索できますけれども、多分、印刷して見る方も多いと思いますので、索引については考えていただいた方がよいのではないかと思います。われわれはもうだいぶ見えていますから、どこに何が書いてあるか大体分かっていますが、でも最初の頃には「この項目ってどこにあるのだろう」という話が出ていたと思うのです。そういう観点でご検討いただければと思います。

それから、難しいというか、日本語の訳語がまだ定着していない新しいコンセプトを表す単語について、随分細かく脚注を付けていただきました。2行に非常に簡潔にまとめていただいたので、ひととおり脚注を全部チェックしましたが、3項目間違っているところがありましたので、指摘しておきます。まず、一番大きいなと思ったのは14ページや157ページに出てくるデジタルツインで、この記述自体かなり大きく間違っていますので、後で少しご相談したいと思います。それから131ページで交通ビッグデータのビッグデータを多量データと書いてあるのですが、これは多量ではなくて普通は大量という言葉を使うので、ここはもう少し書き下して大量な交通データとかそんな感じにした方がいいのかもしれない。いずれにしても、ビッグデータという単語自体が今、日本語でカタカナで使われてしまっていて、普通は漢字の言葉に直さない単語になってしまっていますから、そこは説明にするのであれば説明にした方がいいと思います。それから154ページのデジタルライフラインは、デジタルライフラインという単語自体がデジタルライフライン整備というコンテキストでよく使われるので、この説明も整備まで入ってしまっているのですが、デジタルライフライン

というところで切るとデジタルで色々なことをやるためのライフラインというところまで、整備までは含まれていないというところで、細かい話でしたが私からは以上です。

【高山委員】

全体として、住みやすく、働きやすく、また活力あふれる石川県の実現を目指すための六つの戦略と 38 の施策が、全方位的にきちんとまとめられていると思います。そして、その実現の方策としてはオール石川の推進体制をきちんと整備していくとも、しっかりと書いてあります。県民はもとより、企業であったり、国であったり、市町であったり、大学関係の関係機関であったりがオール石川として進めていくときっちり書かれているのですが、ぜひここに富山、福井、岐阜という石川県に接している隣県も入れていただいた方がいいのではないかと思います。やはり石川県だけでは、十二分ではありませんし、国と書いてありますので、そこはいいのですが、知事は隣県と非常に親密に色々な関係を構築する努力もされていますので、隣県も入れて書いた方が、より一層良いと思います。隣県という書き方でも具体的に県名でもいいのですが、推進体制としては隣県にも協力いただくという形でより良くなるのではないかと感じました。

それから、私が担当したのは戦略 6 の安全・安心かつ持続可能な地域づくりのところなのですが、災害に負けない強靱な県土づくりのために減災や防災、その対策をきちんと強化していく、災害に強いまちづくりを進めるということで、それぞれ対応した K P I の目標を掲げていて、しかもそれを毎年見直ししながらローリングしていくということで、非常にいいと思います。また、この会の最初に、私は S W O T 分析をきちんと行った上で戦略を丁寧に作り上げるべきだと申し上げました。もちろん県としては表には出していませんがきちんと S W O T 分析を行って、石川県の強み・弱みをきちんと把握しながら、それを戦略に入れていて、これも非常にいいと思っています。

ただ、先ほどから、委員の意見として文化や食文化など、石川県の強みがたくさん挙げられていますが、弱みの話があまり出てきていないのです。私は、石川県の弱みは人口減少と高齢化が大都市に比べて今後 10 年でかなり進む。特に能登地域はそれに拍車がかかっている現状があるということだと思うので、そこにもう少し対策をするような書きぶりでもいいのではないかと思います。快適に暮らせるまちづくりをするために地域の暮らしを支える交通体系の構築をするということがきちんと書いてあって、そこは非常に評価したいと思いますが、石川県は縦に細長い県土であり、特に能登は高齢化と人口減少が進んでいる。それに対する交流人口や関係人口を増やすための施策を、もう少し前面に押し出して書いた方がいいのではないかと感じました。

【砂塚委員】

今年、白山手取川水系がユネスコの世界ジオパークに認定されたというビッグニュースがありました。また、能登半島では既に能登の里山里海が世界農業遺産に認定されているということで、加賀・能登そろって世界に誇るべき自然と営みが世界的に認められたわけです。これを機に学びの機会を体系的に広げていくといいなと思っていたところへ、今回の成長戦略では 145 ページに本県の特色を生かした学習機会の充実が盛られていて、大変いいことだなと思っています。

これを具体的に進めるために、私は老朽化が進んでいる県の自然保護センターを建て替え、あるいはリフォームして、ユネスコで認定された世界に誇るべき自然を県民皆が学べる仕組みをつくってはどうかと思っています。自然保護センターは白山麓、旧吉野谷村にあって、

自然を観察する、あるいは白山手取川の成り立ちが学べる機能を有しています。もちろん白山市をはじめとして、地元の自治体が色々な学びの場を整備しておられるわけですが、ここでも連携しながら、学校教育の中で、あるいは生涯学習の一環として、石川県民が誇るべき自然というものを学ぶ機会や仕組みをつくって、広げていっていただきたいと思います。能登は能登で、そういう施設や拠点があつたかどうか、失念しましたが、能登と加賀で自然学習を進めていけばどうかと思っています。

【藻谷委員】

戦略会議の資料をありがとうございました。細かい点は今申し上げても仕方がないので全体としてですが、新しい視点を取り入れるべく、各委員の提言に事務局として精一杯ご対応いただいたと感じています。誠にありがとうございました。

今日、各委員から出た意見に若干の補足コメントを二つほどしたいのですが、一つは農業のところで、水稻から園芸作物に転換して大丈夫かというお話がありました。これについて一言申し上げると、日本の食料安保上、米が足りなくなるという状況は全くないのですが、米しか食えないと江戸時代のように栄養失調で死んでしまうので、絶えず輸入に供給を頼っているものがあります。野菜もそうで輸入が増えていて、園芸作物の中には野菜が入っているので間違っていないのですが、最も輸入に頼っているのは麦と動物の飼料です。それに関しても戦略の中に、少し控えめですが、麦をもっと増やすとか、日本人の食生活の根幹である大豆を増やす、それから耕畜連携が出てきます。ですから、この成長戦略は食料安保上もきちんとよく考えて、ちゃんと書き込まれていると思いますが、食料安保上も重要と書けるのであれば、より納得的だと思います。特に小麦については、私は米派なのですが、皆さん米よりも小麦の方をたくさん食べていらっしゃる、非常に多くの方がパンとパスタばかり食べるので、食料安保上、麦は極めて重要です。

もう1点、人口の話が出ていました。これも良い機会なので、委員の皆さんにぜひ確認しておいていただきたいことを申し上げます。つい1カ月ほど前に、去年1年間で全都道府県で日本人の人口は減りましたという記事が出ました。全国の地方紙、北國新聞にも載ったと思いますが、ご覧になったでしょうか。もう一度申し上げます。2022年の1年間、全都道府県で日本人の人口が減った。これは「ああ、そうですか」で済む話ではないのです。全都道府県ですよ。東京都でも日本人の人口が減っているのです。皆さん、口を開けば「東京だけが栄えて地方は衰える」とか、場合によっては「加賀が栄えて能登が衰える」とおっしゃるのですが、東京でも日本人の人口は減っているのです。これはどういうことかということ、東京はたくさん若者を集めているのに少子化が進み過ぎて日本人が減っているということです。東京の人口が少し増えているのは、インバウンドが復活して東京に住む外国人が増えて若干補っているだけなのです。つまり、これは前々から言っているのですが、地域間格差の問題は引き続きあるといっても、国全体として滅亡に向かうというステージにいよいよ入ってきたということです。なぜそうなったかということ、ほとんどの人が馳知事とは逆に、東京に出て行ってしまっただけで帰ってこないからです。若い人が地方に帰ってきて地方に若い人が増えれば、地方の雇用を増やし、地方でお金を使ってくれて、そして東京よりも地方の方がはるかに出生率が高いので、こんなに日本人は減りません。そういう大きな問題意識が根底にあって、そこをスタートとして県民の幸福度を増し、もっと若い人がとどまり、世界中から人が来る県にしようという戦略を作っているから、その点は全く正しいと思います。

最後にもう1点、細かいことを申し上げます。今の大きな流れで間違っていないと思うのですが、成長戦略であるということで強いて言うなら、ものすごく成長の余地がある観光に

ついで書き方が控えめ過ぎると感じます。70 ページにあるK P Iの中の外国人観光消費単価を、令和1年度から14年度の14年間で2万4,000円から2万8,500円にするとしていますが、これは1ドル=100円だったものが144円になっているのですから、それだけでも3万円ぐらいになっていないとおかしいです。日本人がなかなか増えない中で雇用を増やして経済を成長させ、人件費を払うためには、最も伸び代がある外国人観光客の消費単価を上げることが一番のポイントなのです。少なくとも日本は今、円安で、ものすごい安い国なのですから、その分を取り返してさらに倍増するぐらいの勢いで物を売らなくてははいけないわけです。皆さんもご存じのとおり、アメリカに行ってハンバーガーを食べたら3,000円とか、ニューヨークのラーメン屋の従業員の時給が6,000円とかということに現実なっているわけなので、今更変えられないかもしれませんが、9年後に2万8,500円というのはあり得ません。本当は10万円ぐらいにしてもらいたいところですが、県内的にもめるのであれば5万円ぐらいでも。事前に申し上げず、すみませんでした。これ以上は言い続けませんが、これも、本当は成長戦略として一番伸びるところをこんな控えめに書いてはいけませんよということを、最後の最後に申し上げました。逆にプラスの言い方をすると、もっと増やせますので、計画にこう書いてあっても、本当に良い石川の文化や食をもっと高く売って、若い人の給料を増やしてください。よろしくお願いします。

【和田委員】

初めにお礼を申し上げて、二つのポイントをお話ししたいと思っています。私は強い産業づくり部会の座長を務めさせていただきましたが、部会で出た意見の反映を含め、いろいろな意見を盛り込んでいただきました。また、私自身は大学コンソーシアム石川の立場でこの会議に参加させていただいていますが、研究開発や人材育成について横断的に内容に盛り込んでいただきました。改めて御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

その上で、2点申し上げます。1点目は、学術とM I C Eとのことです。学術行動をしていますと、どうしても発表の場や、様々な新たな取り組みが必要ですが、学術は文化、芸術、食など様々な点と親和性が高く、コラボレーションが可能です。柳先生のデジタルアーカイブ学会も、まさにそういったことで企画されているのではないかと感じました。そこで、67ページにM I C Eという言葉が出てきますが、国際会議の中では国際学術会議等の発表の場もあるのではないかと思います。ですから、67ページに入れるかどこに入れるかは検討が必要かもしれませんが、国際学術会議ができるような施設、環境づくりをしていく。あるいは誘致していく。それによって様々な波及効果があるというようなコメントがあった方が、より発展的ではないかと思えます。学都石川の強みも生かせるのではないかと感じます。

2点目は、この成長戦略の素晴らしい内容を、皆さんにどのように伝えていくのか、そしてどのように実践していくのかを考えることが、次のステップとして必要だと思います。例えば強い産業づくり部会では、県の方々に石川県産業振興指針のダイジェスト版を作っていただきました。つまり、短くして分かりやすくエッセンスを伝えていくということも考えていく必要があるのではないかと思います。先ほど丹先生がインデックスという言葉も使われました。少しコンパクトにエッセンスをまとめて分かりやすく伝えていく、次の実践につなげていくという視点も入れていただけると、より伝わっていくのではないかと感じました。

【飛田会長】

過去3回の会議で、私は石川県芸術文化協会の会長という立場から、文化に関する施策をいろいろ提案させていただきました。ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭の毎年開催、文化振

興基金の拡充、文化振興条例への文化観光の明記など、いずれも最終案に反映されています。私が評価したからどうということもありませんが、率直に評価をさせていただきたいと思います。

それから、将来の都市像に関して1点申し上げたいことがございます。別に大した話ではないのですが、旧県立図書館の跡地利用についてであります。昨年7月に県立図書館が小立野に移転して1年が過ぎました。県では隣接する県社会福祉会館の移転を含めて議論を始めていると聞いております。この本多町一帯の在り方については、かねて金沢経済同友会でも提言をしてまいりましたが、古い図書館を取り壊すならば、その横に建つ県社会福祉会館、金沢市職員会館も併せて、どこか別の場所に移してはどうかと考えます。社会福祉会館は既に築57年、金沢市職員会館は築56年で、もう賞味期限切れ寸前の状態で、これらを取り壊して一帯を緑地にすれば1ha以上になります。都心に1ha以上の緑地があるところはそうありませんから、金沢の新しい都市像を全国に売り出すための大変貴重な材料になるのではないかと思いますので、ぜひその点もご検討いただきたいと思います。

4. 閉会挨拶

【馳知事】

ありがとうございました。最後に私からお礼のご挨拶をさせていただきます。

石川県成長戦略については、4回の会議で皆さま方のご見識を賜り、またパブコメも行き、さらに議会でも様々ご質問を頂いております。また、飛田会長に最後におっしゃっていただいたように、県の成長戦略ではありますけれども、県と金沢の都市像を描かなくてはいけないと考えています。まさしくあのエリアは文化ゾーンで、これまでは社会福祉会館がありましたので生活文化ゾーンという言い方もしていたのですが、今後のことを考えてどうかというご提言であったと思います。それも含めてしっかりと受け止め、最終案を練り上げて9月議会に提出させていただきたいと思います。

ここでお礼を申し上げるところではありますが、私はこれで終わりにしようとは思っておりませんで、画面の向こうの藻谷先生や和田先生も含め、できれば年に1回でも皆さんとの意見交換の場を継続して持ちたいと思っています。石川県の成長戦略であり、今後信じられないような技術開発がなされたり、あるいは信じられないような文化の深みが掘り起こされる可能性もありますので、また折に触れて皆さんにご指導を頂きたいと思ひますし、その機会を持ちたいと思っています。

まずは今日頂いたご意見を取りまとめ、9月議会に成案を提出して承認を頂いた後、新たな目標、KPI指標を目指して取り組んでいきたいと考えていますが、先ほど藻谷先生からご指摘いただいた数字は、どう考えてもあまりにも控えめ過ぎる、実態とかけ離れたものだという事はすぐに分かりましたので、そういったところはきちんと改めてブラッシュアップして成案を出したいと思っています。

これまでのご尽力、ご指導に改めて感謝を申し上げまして、会を閉じさせていただきたいと存じます。ありがとうございました。